

まちづくり市民会議の提案は？

これまで第1期～第4期のまちづくり市民会議から市へ政策提案を行いました。各提案の概要と、その提案に対して担当課から出された回答を紹介します。

【第1期】



「親子読書コンクール」(学校教育課)

概要) 夏休みに、親子で読書をし、その本の感想を親子で共有します。そして親子読書の様子を発表するコンクールの開催を提案します。

結果	採用
実施状況	平成25年8月27日に「ファミリー読書発表会」を開催しました。学校等から推薦のあった家族(3～4組)の発表、図書館教育推進校の指定を受けている学校の発表、市立図書館の取組についての発表をしました。 今年度は8月27日(木)に開催します。



「子どもたちの地域間交流」(学校教育課)

概要) 市内の小学生が、関市内の各地域の魅力を知るために、旧関市内と合併地域とで交流事業を実施することを提案します。

結果	不採用(既存の事業を拡充します)
担当課からの回答	平成24年度から行っています「中学生リーダー養成研修会」において、例えば武儀・上之保地区を尋ねて、その地域の自然や文化等を題材にして交流を図るなど、工夫して実施したいと思います。



「学校のHPの改革」(学校教育課)

概要) 学校への理解者を増やし、自校の教育活動をより活発化するためには、まず、学校が生きた情報を出し続けることが必要であり、そのために、教師とPTA、子どもたちが力を合わせて学校のホームページを作成することを提案します。

結果	採用
実施状況	HP運営について、新しい情報を容易にかつ迅速に掲載できるように、平成26年度に、市内30校が基本的に同じフォームになるHPの作成をしました。

提案
4

「SNSを活用した親と教師・学校をつなぐコミュニケーション」(学校教育課)

概要) 親と教師のコミュニケーションを図るために、Facebook グループ等のSNSを活用する。

結果	不採用
担当課からの回答	「親と教師・学校をつなぐコミュニケーション」は非常に重要なことです。顔を合わせて話すことが最も基本的で大切な方法だと考え、各学校では、保護者が学級担任以外の職員にも気軽に相談できるよう、年度当初のPTA総会や案内文書で積極的に相談窓口等を紹介しています。SNSもコミュニケーションの一つの方法ですが、互いの真意を伝えることが難しいことが一番の課題と考えます。また、送信するのは気軽にできる反面、同時期に多数の質問や意見等が学校に寄せられた場合、その一つ一つに丁寧に対応しようとするとうとうとも時間がかかり、迅速に対応できなくなることも十分に考えられます。

提案
5

「子ども、親、教師が参加する学校対抗の行事」(学校教育課)

概要) 日常的に学校の情報を共有することは大切だが、親、子どもと教師が一緒になって行事に取り組むことで、心の一体感が生まれる。そこで、親、子ども及び教師と一緒に活動に取り組む機会がなかなかなかったことを踏まえ、誰でも参加できる軽スポーツ(たとえば、綱引きや玉入れ)を学校対抗で行うことを提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	子どもと親と教師が一堂に会し、学校対抗を行う行事の開催は難しいと考えています。現在、「連合音楽会」(小・中)やタグラグビー(小)、水泳記録会(小・中)、「わたしの主張大会」(中)のほか、スポーツ少年団や中学校部活動の各種大会など通して、学校間の児童生徒の交流が行われていますが、この交流がさらに豊かなものになるよう働きかけをしていきたいと思っています。



提案
6

「関シティバス・デマンドバスの導入」(市民協働課)

概要) 利用者の移動目的に合った地域公共交通を提供するため、デマンドバスの導入を提案します。

結果	採用
実施状況	<p>現在4地域(富野、田原、迫間、向山)で導入している簡易型デマンド運行バスは、10人から15人乗りのワゴンを利用し予約に応じた運行を行っております。</p> <p>現在、定時定路線で運行している関シティバスの中で、わかくさ・下有知東線、下有知西線、小瀬線については、関市のバス運行評価において運行形態の見直しを行うという結果が出ました。それを受けて上記3路線の運行エリアにタクシー車両を利用したデマンド運行を今年度導入しました。</p>

提案
7

「シティバス・定期乗車券の導入」(市民協働課)

概要) 公共交通の通学利用者を増加させるため、バス定期乗車券の導入を提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>定期乗車券の導入により利用者の若干の増加は期待できますが、通学利用者の運賃を割引くことによる収入が減少することが考えられます。したがって、関市シティバスの定期乗車券の導入は、現状では効果が低いと思われるために、今後、慎重に検討していきます。なお、現在、シティバスの回数券(100円券が11枚綴りで1,000円)を販売していますので、市民周知を行い回数券の利用促進を図っていきます。</p>

提案
8

「関シティバス・市民サポーター制度の導入」(市民協働課)

概要) 持続可能な公共交通を実現するため、市民サポーターによる支援組織を設置することを提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>長良川鉄道につきましては、マイルール意識、存在の意義について市民の方に理解をいただいて様々な形で市民の皆さまからサポートしていただいておりますが、シティバスについてはまだその意識が薄いのが現状です。地域の公共交通を確保するために関シティバスの利用しやすい仕組みや路線を考え、改善を行っていく中で、関シティバスをはじめとしたバス交通の必要性を理解していただくことが優先だと考えています。</p> <p>現在はバス車両を利用した広告掲載によって一部サポートをしていただいておりますので、企業や店舗に対して広告掲載を募集しています。</p>

提案
9

「関シティバス・観光事業との連携」(市民協働課)

概要) 新たな利用者を増やすため観光事業との連携を提案します。1日フリー切符の導入、公共交通で楽しむ関市観光ガイドブックの作成、乗車特典等。

結果	不採用
担当課からの回答	平成26年4月に完成した関シティターミナルの待合所には、観光案内板や特産品販売のショーケースを設置し販売を開始しました。関シティターミナルの乗継拠点としてのPRおよび、シティバスを活用した観光ルートとバス路線図をまとめたガイドブックの作製を行い、関市観光協会と協力し、今後関シティバスを観光利用につなげていきたいと考えております。なお、1日フリー切符の導入は、利用者数や利用料金などの面で効果が低いと考えられますが、今後の課題として研究します。

提案
10

「長良川鉄道・トロッコ列車の復活」(市民協働課)

概要) 観光目的の利用者を呼びこむ目玉として、かつて存在したトロッコ列車の復活を提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	平成26年3月に沿線市町職員で構成される長良川鉄道再生研究会から沿線市町首長(取締役)に対して観光用車両の提案を行いました。 長良川鉄道からは導入に当たり、コスト面の詳細な分析、調査や線路等施設の耐久性調査等様々な課題があるという回答を得ています。 現在、トロッコ列車ではありませんが、観光列車の導入に向けて準備を進めています。

【第2期】

提案
1

「将来の想いに火を灯せ（カタリバ等の実施）事業」（学校教育課）

概要）市内の中高生を対象に認定NPO法人カタリバを招いて講演会またはカタリバ体験会を開催し、将来を話し合う対話スタイルについての理解を深めます。継続的に関市内で実施していくための実行委員会を組織し、その市民ボランティアを広く募ります。

結果	不採用
担当課からの回答	高校生に有効だと考えるので、市の教育委員会として働きかけることができる関商工高等学校に、キャリア教育の一環として紹介できます。

提案
2

「キャリア・コーディネーター設置事業」（学校教育課）

概要）より充実したキャリア教育を、より円滑に行うために「キャリア・コーディネーター」を学校に配置します。キャリア・コーディネーターは、生徒の相談対応や学校と企業等との調整役を果たします。

結果	不採用
担当課からの回答	キャリア教育に外部人材を登用して充実を図るということについて、内容や方法を十分に検討した上で実施を考えたいです。 今年度は、トップアスリートを招いて夢をかなえることの大切さや、夢をかなえるために努力することの大切さを学ぶ「夢教室」をキャリア教育の一環として開催します。

提案
3

「関市版キッズニア事業」（学校教育課、商工課）

概要）子ども向け職場体験型テーマパークが都市で人気です。そこで関市でも市内に様々な職種・職場があることを活用し、子どもたちに地域にある職場で仕事を楽しく体験してもらいます。「ハサミを組み立ててみよう」「ミシンを踏んでTシャツを作ってみよう」等、関の産業を見ることは郷土教育にもなります。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>小学生の職場体験は、職業を疑似体験することに矮小化されないよう配慮することと、児童の発達段階を考慮して、慎重に進めるべきと考えます。また、中学校で行っている職場体験との共通点や相違点を明らかにして、検討する必要があります。また、国の教育改革の動きが加速しており、この事業の優先順位は低く実現できません。(学校教育課)</p> <p>関市でテーマパーク的に集約して、多様な職業を体験できるようなメニュー化は難しいと考えます。今年度は「関の工場参観日」を夏休み期間(8月26日～29日)に設定し、子ども向けのメニューも多数用意しているので、ぜひ参加していただきたいと思います。(商工課)</p>

提案
4

「キャリア教育の日の制定(学校教育課)」

概要) 市民みながともに話し合い、高め合う日としてキャリア教育の日の制定を提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>キャリア教育に対する市民への啓発にはたいへん有効な提案であると考えます。具体的な活動内容について、学校等との調整を図りつつ、実現に向けて検討したいと思います。しかし、学校はそれぞれの地域の実状に合わせた地域との連携した事業に取り組んでいるため、関市全体でキャリア教育の日を制定するのではなく、各学校が取り組むべき事業に優先順位をつけて取り組むことが重要と考えます。(学校教育課)</p>



提案
5

「市長、部長インターンシップ」(職員課)

概要) 関市内の若者に、関市長、部長へインターンシップする事業を提案します。

結果	採用
担当課からの回答	<p>提案された内容を実施可能な形にするため、募集人員、期間、交通費について一部修正させていただき、今年度実施予定です。活動報告会については、まちづくり市民会議のみなさんが主体となって開催を検討していただきたい。(職員課)</p>



提案
6

「学生による投票率アップチームを結成」(総務管財課)

概要) 若者の投票率を上げるために、学生による学生に向けた投票率アップを訴える広報を考える事業を提案します。

結果	採用
実施状況	平成26年度、学生を公募し、学生による啓発グループ「ikomai プロジェクト」を結成しました。成人式や開まつりで投票率アップのための啓発活動を行いました。(総務管財課)

提案
7

「高齢者いつでもサロン」(市民協働課、高齢福祉課)

概要) 高齢者が集まるために、誰もがいつでも気軽に立ち寄れるような常設の談話室のような空間「高齢者いつでもサロン」を提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>高齢者にとってたまり場は必要不可欠な場所であるため、市が取り組んでいる地域委員会(概ね小学校区を単位として設置)の取り組みとして提案していきたい。(市民協働課)</p> <p>提案にある場所での常設サロンの開催は困難であると思われます。現在のサロンとしては、高齢者たまり場創造事業のモデルとして、シルバー人材センターに委託している「にこにこサロン」を本町で開設しています。歩いて行けるような身近な地域ごとのサロンとしては、社協支部の活動を地域委員会や老人クラブ、まちづくり委員会などと連携し、地域の実状に合った開催を検討する必要があります。(高齢福祉課)</p>

提案
8

「好きなことバンクと助け合いポイント制度」(企画政策課、高齢福祉課)

概要) 高齢者の好きなこと、得意なことを登録した「好きなことバンク」の設立と、日常生活の助け合いを気兼ねなく行うために「助け合いポイント制度」を提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	対象者を高齢者に限らず、ボランティア活動が広く市民に普及する仕組みを、地域通貨の導入と併せて研究していきます。(企画政策課) シルバー人材センターに委託している「ワンコインふれあいサポート事業」と重複する部分があるように思われるため、事業の棲み分けを十分検討する必要があります。社協や市の関係課とも協議をしながら、導入できるかどうか検討します。(高齢福祉課)

提案
9

「地域コーディネーター育成事業」(高齢福祉課)

概要) 提案7、8の事業を行うためには、高齢者の取りまとめ役となるコーディネーターの存在が不可欠です。地域コーディネーターの育成事業を提案します。

結果	不採用(既存の事業を拡充します)
担当課からの回答	まずは、高齢者自らが、自分たちが主体となり、地域づくりをしていくという意識づくりが重要であると考えています。生産年齢の減少により、労働力はますます減少するので、元気な高齢者に頑張っていただき、支援の必要な高齢者の支えになっていただきたい。持続可能な社会を存続するために元気な高齢者の力を期待しています。(高齢福祉課) 地域リーダーの育成事業として「地域づくり型生涯学習コーディネーター育成研修」や「まちづくりリーダー養成事業」に取り組んできました。新たに事業を立ち上げるより、この事業に高齢者の視点を取り入れた内容を位置づけ、講座受講後の実践の場を提供します。(生涯学習課)

提案
10

「幸せ創造授業」(学校教育課)

概要) 子どもの頃から人口減少時代の幸せについて考えることを定期的に行うことが大切です。小中学校で、人口が減って行く現状を教え、その後、その世界で「自分が幸せに暮らすために」について考える時間をとります。

結果	不採用
担当課からの回答	学校教育でぜひ取り上げたい内容です。実施方法は各学校の判断に任せますが、家庭教育学級説明会や校長会等において幸せ創造授業の実施を提案します。

提案
11

「幸せ実現企業」(商工課)

概要) 提案 10 で出た中学生からのアイデアを関市の企業が本気で実現する場合「ビジネスアイデアコンテスト」を提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	「ビジネスプラス展 inSEKI」の場を活かす事が有効であるとの提案なので、秋に初めて開催する「関の工場参観日」も含め、実行委員会を組織しているの、提案の報告をしながら検討してまいります。(商工課)

提案
12

「幸せ応援行政」(商工課)

概要) 提案 10、11 を取り組む上で、行政が金銭的、人的にサポートすることを提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	企業の商品開発のために補助することは難しいと考えます。提案事業2にあるような子どもたちのアイデアコンテストと連動した支援を検討します。

【第3期】

提案
1

「関のグルメの新提案 関デカ盛りプロジェクト」(観光交流課)

概要) 各種飲食店が、常人では到底食べることができないその店オリジナルの“デカ盛りメニュー”を考案し提供する。その各店がチームとなり、さまざまな情報発信から誘客、経済活性につなげます。

結果	現状、不採用
担当課からの回答	<p>今回ご提案頂いた企画やコンセプトについては、市(行政が)中心となって実施するものではなく、熱意ある各店舗や商店街等との連携により実施するものと考えます。提案のありました事業について、各種店舗が集まる観光協会等において意見を聞き、連携して取り組んでまいります。</p> <p>→(現在の状況)今のところ関係業界からの反応はないが、次回の観光協会総会で意見を聞いたり、各種業界に文書などで照会しながら、反応を見ていきたい。</p>

提案
2

「小瀬鵜飼コンパ開催」(観光交流課)

概要) 千有余年の伝統漁法「小瀬鵜飼」が行われる小瀬鮎の里で、男女が出会う機会を創出。幽玄なかがり火が、燃え盛る恋の炎に変わります。

結果	現状、不採用
担当課からの回答	<p>小瀬鵜飼保存会、観覧船事業を運営している関遊船株式会社、そこにかかわる船頭さんら関係者と、今回の提案について情報提供し意見交換を行います。また、鵜飼婚活の実施の際には、生涯学習課(公民館)における婚活施策や街コンを行う団体とも連携したいと考えています。</p> <p>→(現在の状況)今のところ反応はないが、引き続き、小瀬鵜飼保存会、観覧船事業を運営している関遊船株式会社、船頭さんら関係者と意見交換をし、実施に向けて検討を重ねたい。</p>



「わかもの活躍サポートセンターの設置」(市民協働課)

提案
3

概要) 市内に点在し、活動時間も様々な若者を集めるにはどうしたらよいのでしょうか。高齢者のたまり場作りが進められているように、若者のたまり場ともいえる施設を設置してはどうかと考えました。

提案
4

「若者まちづくり会議の開催」(市民協働課)

概要) 関市まちづくり市民会議は多世代の集まりです。若者にスポットを当てた、福井県鯖江市のJK課や全国各地で開催されている“若者会議”を関市でも設置してはどうかと考えました。

結果	採用
担当課からの回答	<p>この関市市民活動センターにおける若者支援の役割を強化させることは重要ですので、若者に特化した事業を来年度から試行的に実施します。</p> <p>→ (現在の状況)</p> <p>今年度、市民活動センターが若者まちづくり会議を実施予定です。</p> <p>また、今年度より関市では、市内の高校生(主に関、関有知、関商工)を対象とした若者協働推進事業「まちづくり倶楽部」が始まりました。毎月テーマの異なるイベントに参加し、関市やまちづくりに関することを気軽に楽しく学んでもらうことで、将来のことを考え積極的に活動できる若者を育成することをねらいとしています。継続的な事業を予定しており、長期的には、市政に対する協力・提案など、未来の関市のリーダーとなる若者を育成していきたいと考えています。</p> <p>また随時、参加する高校生からの提案・意見を受け付けており、毎月のイベント内容に反映していく予定です。</p>

提案
5

「新ブランド『刃モノ一生モノ』の設立」(商工課)

概要) 新ブランドとして『刃モノ一生モノ』を立ち上げます。「一生使える物」という絞り込みを行い、企業から「一生使える刃物」、「一生メンテナンスの約束ができる刃物」公募し、外部認定委員会が認定します。

結果	現状、不採用
----	--------

担当課からの回答	→（現在の状況）関市の刃物は高い評価を受けておりますが、企業ごとでブランド展開されている場合が多いかと思えます。しかし最近では、今治タオルなど産地ブランドが浸透してきておりますし、刃物会社様とはビジネスプラス展、工場参観日、はもけんなどの行事も含め関係を持っており、今後もブランディングについても引き続き意見を聞いていきたいと考えております。
----------	---

提案
5

「関は『刃物を使う町』『刃物を贈る町』として
市民からムーブメントを起こす事業」（商工課）

概要）関市民は刃物を使うまち、贈るまちであることのムーブメントを作ります。刃物のまちとして、市民が使うこと、贈ることを気に留め、行動に移すことで、市民の取り組みが話題を呼び、外部に向けた関市自身のブランディングへの一役となります。

結果	不採用
担当課からの回答	→（現在の状況）市では、伝統的な刃物が市民の皆様にとって、より身近に感じていただけるよう「ビジネスプラス展、工場参観日、はもけん」など刃物を身近に関われるイベントを行っています。これからも市民の皆様のムーブメントに合わせて、取り組んでいきたいと思えます。

提案
7

「わがまち防災会議の開催」（危機管理課）

概要）市全体ではなく、小学校区単位で防災会議を開催する。地域住民が、地域で起こり得る災害について話し合い、避難方法など行動計画をつくることを3年毎に実施する。

結果	現状、不採用
担当課からの回答	<p>地域で起こりうる災害を学び、訓練が実施できるよう、地域委員会や自治会連合会支部などに対して、先進地区の事例などを紹介したいと考えます。また、すでにある防災訓練補助金を有効に活用いただき、防災会議等が実施できるよう要綱の見直しや予算確保に努めます。さらに、提案をいただきました防災会議の講師紹介なども、市として積極的に行います。</p> <p>【回答】</p> <p>→（現在の状況）多様な訓練を行っていただけるように防災訓練補助金要綱を見直し、予算の確保を行いました。また、岐阜大学内に設置された「清流の国ぎふ防災・減災センター」に講師派遣の協力を依頼しました。</p>

提案
8

「運転免許更新時における災害 DVD の視聴」(危機管理課)

概要) 運転免許更新時の交通安全講習会に交通安全啓発用DVDとともに防災啓発用DVDを視聴してもらう。運転免許保有者は、毎年ではないものの必ず3～5年に1度受講するため、防災意識を向上させる良い機会となる。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>関市で実際に発生した災害を題材とするDVDについては、防災を身近に考えるための教材として活用できると考えますので、DVDの制作を検討します。</p> <p>→ (現在の状況) 関市で実際に発生した過去の災害の調査を行うだけでなく、関市で起こる可能性の高い災害についても調査を行いDVD製作の検討を進めます</p>

提案
9

「非常食を活用した料理コンテスト・料理教室の開催」(危機管理課)

概要) 行政が備蓄している災害用非常食を使った料理コンテストや料理教室を開催する。消費期限が到来する災害用非常食を防災訓練などで単に配布することよりも有効活用することができる。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>→ (現在の状況) 非常食を使った料理のレシピは、既に多く公表されており、その中から関市が備蓄している非常食などを用いた料理について、防災訓練などの各種イベントで紹介できるよう検討しています。</p>

【第4期】

提案
1

若者向けにアプリ、メールで関のお店情報の配信を(安心メール活用)(市民協働課)

概要) 安心メールの選択項目の一つとして、「若者向け、市内の魅力的なお店の紹介」を追加します。定期的に、お店の記事が配信される仕組みです。配信される情報は、提案1等で作成したもの等が考えられます。この情報を配信するための学生チームをつくることも有効だと考えます。

結果	不採用
担当課からの回答	<p>市が特定のお店や遊びの場所を紹介することはできませんので、観光協会や商工会議所などの協力が必要です。若者に向けた関市紹介アプリなどの開発支援を、市民活動助成金をできるのではないかと考えます。今後の展開としては、商工会議所等を通じて商店の学生割引拡大やPRなど若者</p>

に向けた発信が増えるよう働きかけをしていきたいと考えます。
 あんしんメールを使ったグルメ情報の発信について積極的な考えではありません。



提案
2

関市の魅力的なお店を書いた情報紙を学生が中心に作成。それを入学式に配布する。(市民協働課)

概要) 現在、岐阜医療科学大学では、学生自治会が中心となり、関市のお店情報を作成し、それを入学生に配布しています。それを、関市全域に広げては如何でしょう。市内の大学生とサポートする大人が集まり、「チェーン店だけではない、関の魅力的なお店」の情報紙を作成し、関の大学、専門学校の新入生全員に配布します。

結果	採用
担当課からの回答	市が特定のお店を紹介した情報紙を作成することは困難ですので、学生自治会が中心に実施していただくことが良いと思います。サポートとして、「関市市民活動センター」に入ってもらい、市民から見た情報なども盛り込めると良いと思います。関市のお店情報を観光情報などと併せて、大学の学生自治会に作成、配布していただき、それに対して市民活動助成金で支援します。観光情報やお土産情報、さらに市内のバス運行や長良川鉄道などの公共交通に関する情報が、学生向けに発信されていないことがわかります。作成にあたり、掲載する情報を、関係課と大学で打ち合わせます。



提案
3

- 路線バスを使った観光モデルコースをつくる
- 路線バスで観光地に行くことを呼び水に、路線バスの乗り方講習会を開催(市民協働課)

概要) 今回の板取ツアーのように、現在既に走っている路線バスで観光できるためのモデルコースを作ります。季節ごとに、板取だけではなく、上之保や武儀へのツアーを作ります。また、その路線バスで観光の旅を企画する時、最初の1日目に、案内人もついでの路線バス乗り方講習会を実施します。

結果	採用
担当課からの回答	即実施予定。以前から、行いたいと考えていた事業であり、今回試行で行った板取への路線バスの旅は、想定をはるかに超える反響がありました。利用者アンケートでも大変満足度が高く、別の地域でも実施してほしいとの声も多くありました。今回の西ウイングをはじめ、東ウイング、関市街地でも季節ごとのルートがあると良いとの回答もありましたので、観光交

流課と協議を行いながらモデルコースを作成します。

提案
4

関市における貧困家庭の数を把握する「相対的貧困率」の調査をしてください（福祉政策課）

概要) 世界的貧困の指標である「相対的貧困率」で、関市の貧困家庭の実態調査をする。

結果	不採用
担当課からの回答	貧困率の算出には、世帯ごとの収入や支出についての各種データを幅広く収集して計算する必要があります。現時点では調査方法などについて確立されておらず、困難ではないかと考えます。また、市町村単位で貧困率の算出を行ったとしても、それだけでは他の市町村等との比較をすることができないため、得られたデータをより効果的に活用するためには、ある程度、自治体間の比較ができるように調査方法等を統一して実施することが望ましいと考えます。

提案
5

学習支援を実施してください（福祉政策課）

概要) 定期的（週1回、2回程度）な学習支援を実施する。定期的に実施していくためには、今回のようにボランティアのみでの運営は難しいと考えます。関市として予算化し、実施していただくことが必要です。

結果	採用
担当課からの回答	市として貧困の連鎖を防止する上で、生活困窮家庭の子どもへの学習支援は必要であると考えます。当面は、活動を行っていただける市民団体を、今年度末募集のいきいき市民活動助成金(関市との協働事業)で支援しながら、将来的には、市民団体、NPO法人、社会福祉協議会等に委託することも検討したいと考えています。


提案
6

子ども食堂を実施してください（福祉政策課）

概要) 学習支援に合わせて全国的に広がっている子ども食堂を実施する。

結果	採用
担当課からの回答	「子ども食堂」を実施する市民団体への支援をします。現在、市として具体的な支援事業はありませんが、実施する市民団体が発足した際は、補助制度、場の提供などの支援策を検討のうえ実施したいと考えております。

【第5期】


 **提案 1** 子どもミュージアム商店街を継続して実施するための初期費用のサポート
 してください（商工課）

結果	採用
担当課からの回答	本事業において、商店街を中心とした実行委員会開催される場合に、市としても協力サポートしていきたいと考えます。


提案 2 鵜飼に来たお客さんへ「小瀬・池尻周遊観光」のオプションツアー(有償)を作るお手伝いをしてください（観光交流課）

概要) 鵜飼に来たお客さんへ「小瀬・池尻周遊観光」のオプションツアー(有償)を作るお手伝いをしてください。将来的な運営は「関遊船」もしくは「関市観光協会」に任せることを前提に、オプションツアーを作るための、ガイドの育成、ツアーの企画、立ち上げの広報等のお手伝いをお願いします。

結果	保留
担当課からの回答	周遊地域への回遊性を高める施策の一つとして、オプションツアーの手法は効果的であり、今後チームで研究される時にはアドバイスさせていただきたいと考えます。

 **提案 3** 鵜飼乗船場に、「小瀬・池尻周遊観光」のマップ、看板を設置してください。（観光交流課）

結果	採用
担当課からの回答	課題等はあるものの、看板の設置、パンフレットによる普及啓発は効果的であり、観光交流課のみならず、関係課とも連携をして設置・作成する方向で考えています。

 **提案 4** 大学と市が連携した講義を提供してください（市民協働課）

概要) 関市のまちづくりや、歴史、福祉の現状が学べる講義を関市から提供してください。福祉・医療に関しては、担当の市職員や関市の施設での実習など、関市の実情から学べる機会を作ってください。

結果	採用
担当課からの回答	関市と連携している3大学の連携担当部署に早速相談に出向きます。その中で、理解いただけそうな感触があれば、講義の内容を充実するため各課と調整します。


提案 5

大学と市民合同の関市を知って楽しむためのサークル活動立上げに対してコーディネーターを置く支援をしてください（市民協働課）

概要 今回の企画でサークル結成の意向のあった学生たちを中心に、学生が関市の魅力的なスポットを訪れたり、イベントに参加できたりする活動を市民と大学生との合同で立ち上げます。市民や大学をまたがる活動になるため、その運営には、間に入って調整するコーディネーターが必要だと考えます。設立して軌道に乗るまでコーディネーター支援をいただき、徐々にメンバー内でできるようにしていくことが望ましいと考えます。

結果	採用
担当課からの回答	市民協働課と市民活動センターとで連携し、具体的なコーディネートの内容を検討し、コーディネーター設置事業を試行的に実施する方向で進めていきます。


提案 6

広報せきに大学生向けの情報の提供をしてください（秘書広報課）

概要 住民票を移さずに関市に移住してきた学生へ、広報せきを配布してください。大学生の暮らしに役立つ情報ページを、広報せきに設けてください。市からの情報の提供だけでなく、大学生が自身の目線から必要な情報を提供できるページとして設けてください。

結果	採用
担当課からの回答	大学生に広報紙を読んでもらえるよう、大学にも“広報せき”を配布します。 ・情報ページを大学生が作り手となって提供していくことは、おもしろい試みと考えます。作り手の候補となる提案2とあわせて考えていきます。市民に対して大学の情報を提供することも、検討していきます。